

ほっとハート



小さな出会いは大きな奇跡

〇年〇組 〇〇〇〇

私は元来学校好きの子どもで、小学生の頃から『学校に泊まるには』という作戦を立てたり、中学・高校生の際は部活や行事の準備という名目で土日・長期休みもほぼ毎日学校に來たりしていました。

かといって、学生生活の授業や部活の記憶が鮮明にあるかと言えば、そんなことはなく、ほぼ抜け落ちています。旧友との酒の肴の思い出話で、やっと『ああ、そんなこともあったな…。』と思出す程度です。

…でも、楽しかったんですね。覚えているのは休み時間や放課後に起こった些細な事件、全力を尽くした遊び、行事、それに甘酸っぱいアオハルの数々…。やはり、私にとっては人との関わりこそが何物にも代えられない財産であり、今の自分を形作っているものだと感じます。

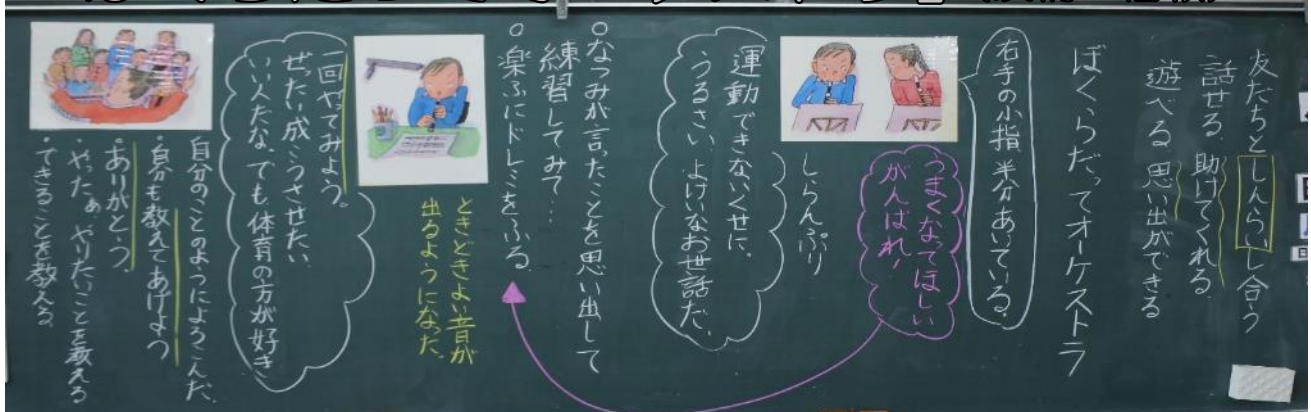
中でも高校の時には文化祭実行委員に所属し、自分たちで学校行事を組み立てていく楽しさを味わいました。実行委員も個性豊かなメンバーで、時には夜遅くまで学校に残ったり、生徒会長の家に泊まり込みで作業をしたりしました。『企画書』や『レジュメ』という言葉やその作り方などもこの時に学んだ記憶があります。企画書を覚えたての高校生ほど厄介な生き物はいません。没を食らったって何も失うものがない私たちは毎日のように企画書を立案しては、先生方を悩ませていました。(当時はマンネリ化した文化祭を変えようと必死だったのです。こちらの熱意を組んで、真摯に対応してくださった先生方に感謝しております。)文化祭が終了した後は、各団体から感謝や労いの言葉をもらい、受験期の励みとなった思い出もあります。

当時一緒に活動した仲間とは今でも少なくとも年に2度は集まり、旅行やゲームを楽しんでいます。また、ライフイベントの際にはお互い心から祝い合える仲です。仲間の慶びは自分の喜びにもなりました。また、文化祭の花形である茶道部(お茶菓子がでるから人気だったのです。)の部長さんは十数年経った今、息子と共に毎日「パパおかえり。」と私に言ってくれる存在です。

縁とは不思議なものですが、学生生活で培った友情、友達こそが、自分の人生にとってかけがえのない財産になっていることは確かです。一度、芽生えた友情は大切にしていきたいと常日頃考えています。子どもたちにも多くの出会いをして、多くの人と関わり合い、より良い人生を歩んで行ってほしいと願っています。

各学年の実践より 今回は、4年生の授業を紹介します。

「ぼくらだってオーケストラ」(友情・信頼)



○ねらい

友達と互いに理解し励まし合いながら、助け合おうとする心情を育てる。

○教材の内容について

体育が得意なてつおは、楽器の演奏は苦手な音楽会でリコーダーに決まり目の前が真っ暗になっていました。個人練習でうまくならず、息のもれたような音を出していると、そばで練習していたなつみがアドバイスしてくれましたが、(なんだよ、えらそうに。逆上がりもできないくせに。)としらんぷりをしました。家でなつみの言ったことを思い出して、指の位置を確かめて吹くと良い音が出てきました。次の練習では、なつみは楽譜にどれみを書いてくれて、次の練習でもなつみが熱心に教えてくれて少しずつ上達し、1週間後吹けるようになると、なつみは自分の事のように喜んでくれました。嫌だった音楽会が楽しみになり、なつみへの気持ちが変わっていったお話です。

○授業では

中学年では活動範囲が広がり集団との関わりも増え友達関係も広がってきます。また、気の合う友達同士で仲間を作って自分たちの世界を確保し楽しもうとする傾向があり、自分の利害にこだわることでトラブルを引き起こすこともあります。なつみが言ったことを思い出しながら、リコーダーの練習をしているてつおの気持ちを考え、初めは偉そうに思っていたなつみへの気持ちの変化を話し合い、友達のことをよく理解し信頼できるとよりよい友達関係になることに気づきました。振り返りでは、友達がいてよかった経験を思い出して友達の大切さを実感していました。

- 側転の練習していた時、「上手だね。もうちょっと足を上げたほうがいいよ」といってもらい、できるようになった。
- 二重とびができず、くじけそうだったが、友達からアドバイスをもらい、うれしかった。
- 書写でまちがえた筆順で書いていたが、友達から教えてもらったように書いたら「きれいだね。」と言ってくれた。
- 友達から鉄棒を教えてもらった時、ぼくも、自分のできることを教えてあげようと思った。

○授業を終えて

苦手なことや大変なことがあった時、友達から声をかけてもらったり、一緒に取り組んで乗り越えたりした経験から、友達がいてくれるありがたさや一緒に学ぶ楽しさを実感している児童が多く、自分も友達のために行動しようとして互いに信頼し支え合う友達関係を築いていこうとしていました。これからの様子が楽しみです。